APNIC62 参加報告

大阪工業大学大学院 渡邉創大

目次

- 自己紹介
- 概要
- 参加動機
- 参加したセッション
- セッションおよび現地での交流から得た知見
- APNIC 62への参加を通じて得た所感
- 謝辞

自己紹介

- 氏名: 渡邉創大
- 所属
  - 大阪工業大学 修士2年
  - 通信方式研究室(山内研)
- 研究テーマ: ネットワークインフラの運用自動化



開催概要

- カンファレンス名: APNIC62
- 会場: インド・ムンバイ The Westin Mumbai Powai Lake
- 参加日程:2026/09/07~2026/09/19



参加動機

アルバイトやコミュニティを通じて、ネットワーク設計/運用に携わる

一組織内の運用にとどまらず、
インターネット全体を支える運用の考え方に興味を持つようになった

APNIC 62では、各国の運用者との交流や議論を通じて
国内だけでは得難い視点を得たいと考えた

参加したセッション

- Newcomers Welcome
- AI in Networks
- INNOG 9 Session
- ICP-2 Review (RIR Governance Document)
- Policy 101
- IPv6 Deployment
- Joint SIG Sessions
- Lightning Talks
- Technical Session 3 - Network Security & Standards
- Open Policy Meeting 2 - Policy SIG
- APNIC Member Meeting 1
- APNIC Member Meeting 2
- Closing Social

セッションおよび現地での交流から得た知見
- 地域ごとに異なるインターネットインフラの課題

- 多くのセッションで各地域/組織の課題が共有されていた
  - 例
    - 海底ケーブル障害時にDNSが利用できなくなる
    - GeoIPと衛星通信の相性の悪さ
    - 人口過密とFTTHの普及率の悪さに伴うWi-Fiの干渉

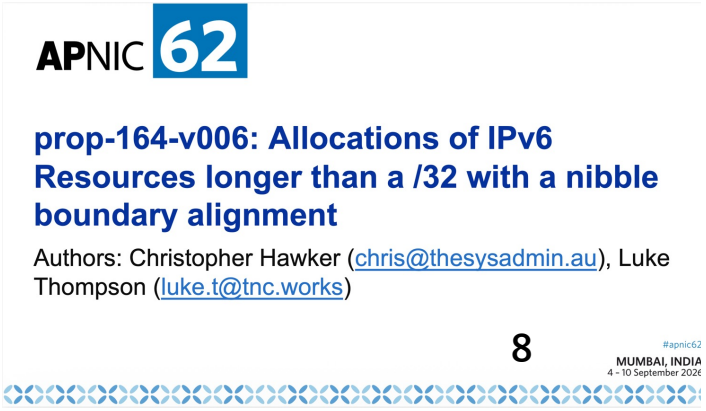
地理的な条件などにより、各組織が直面する課題は異なる

**インターネット自体が異なる組織の
NWの相互接続であることも改めて認識させられた**

セッションおよび現地での交流から得た知見
-コミュニティによるインターネットのポリシー形成

- Prop-164
  - IPv6の最小割り振りサイズを/32から/40へ変更する提案
  - 小規模事業者でも必要量に応じた割り振りを受けやすくする提案
  - 本当に十分な需要があるのか
  - Whois/RDAPの課題を割り振りの変更で解決すべきか
  - 経路数の増加に対応できるか
  - 一定の支持はあったが合意には至らず、メーリングリストへ差し戻し

広く運用ができるポリシーへ近づけるための仕組みとして、コミュニティによる合意形成が機能していることを確認



セッションおよび現地での交流から得た知見
- ネットワーク運用の自動化

- AI in Networks
  - AI向けデータセンターNWの設計
  - MLによる障害予測
  - AIを用いたGeoIP情報の作成
  - AIエージェントによるNW運用

一方で、どこまで操作を任せるか / 安全性をどう担保するかはまだ手探り

運用自動化に関わる中で、AIのインパクトを強く感じる一方、
実運用への落とし込みの難しさも感じた

APNIC 62への参加を通じて

- 国や地域によって、ネットワークの前提や課題は大きく異なる
- その違いを抱えながら、一つのインターネットとして運用されている
- 技術だけでなく、共通のルールを作り続けることもインターネット運用の一部

今回の参加を通じて、地域ごとの事情やポリシー形成に触れ、
国内での活動だけでは得難い視座を得ることができた
→社会を支えるインターネット基盤の運用に関わっていきたい

謝辞

APNIC 62への参加にあたり、多くのご支援をいただきました。

- JPNIC関係者 / 事務局の皆様
- 共に参加したフェローの皆様
- 現地で交流してくださった皆様

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

今回得た経験を、今後の研究 / 業務 / コミュニティ活動へ生かしていきます。